





絵画と出会う「この一点!」

開館30周年記念

現代絵画コレクション展

会場：田辺市立美術館
会期：2026年12月5日（土）～2027年1月24日（日）

妻木良三（１９７４～　）は、鉛筆を主に用いて絵画を制作している作家です。和歌山県湯浅町の本勝寺に生まれ、２００１（平成１３）年に武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コースを修了しました。東京での作家活動の後、２００８（平成２０）年に帰郷して自坊で僧職を務めながら創作を重ねています。

妻木は、最初に襞が特徴的な布の造形物をつくり、それ（とそれを撮影した写真）を見ながら鉛筆等を使って描写してゆきます。その行為のうちに妻木のイメージが絵画化され、作品となって完成します。そこには山や波、雲といった原初的な風景を想起させる、静寂な世界が広がります。

本作にも山脈が独立したような襞のかたちが、画面の中央に聳えています。タイトルの「ZONE」は地帯・区域といった境目を強調する意味を持つ言葉ですが、画面に描かれた襞は、今にも中へ外へと蠢き出し、その境界を侵食してゆきそうです。

（学芸員　知野　季里穂）



妻木良三《ZONE Ⅰ》2022年
田辺市立美術館蔵

田辺市立美術館へのきもち㉟

田辺市立美術館が開館してから、本年で３０年となる。私の若いころ、田辺市にこのような美術館が出来るとは夢にも思わなかった。田辺市出身の脇村禮次郎氏が１９８８（昭和６３）年に８４歳でお亡くなりになり、郷里の田辺市に美術館を建設してほしいとの遺志によって、株式２０万株（３億円）をご子息の脇村春夫氏が寄附されて事業が始まった。建設場所や規模、構造などを協議するため、美術館建設懇話会が設置され検討が行われた。その結果田辺湾を見渡す新庄総合公園の中に、坂倉建築研究所によって設計された美術館が、１９９６（平成８）年１１月開館の運びとなった。禮次郎氏の多数の充実した文人画コレクションは脇村奨学会に寄贈され、それが田辺市立美術館に寄託された。私は若いころ禮次郎氏に大変可愛がって頂いたのを懐かしく思い出す。鎌倉のご自宅でご馳走になり、床の間には青木木米の「聴濤図」が掛けられていて、食器は北大路魯山人であった。氏の生活と共にあった作品を、この美術館で身近に鑑賞できるのは有難いことである。

その後、禮次郎氏の兄にあたる東京大学名誉教授で、日本学士院院長を務められた脇村義太郎先生が１９９７（平成９）年に９７歳で亡くなられ、コレクションされていた日本近代絵画の名作、佐伯祐三の「リュクサンブール公園」や「扉」をはじめとする著名な洋画家の作品の数々、日本画の村上華岳の秀作や、多数の文人画などが、ご子息の脇村友雄氏より寄贈された。さらに、３億円の基金から、これらを補完する作品や田辺市と関係の深い原勝四郎、保田龍門、川口軌外、稗田一穂等の作品が多数収集された。このようにして、現在の田辺市立美術館の実に充実したコレクションが形成されてきた。これらが脇村家の方々の寄贈に端を発していること、そしてそれに応えられた田辺市政の関係者の方々の尽力に心から感謝したい。

私は父の死後、後を継いで田辺市立美術館協議会委員や作品選定委員に任命され、美術館運営に長らく関わってきた。田辺市立美術館のコレクションは近世の文人画と日本の近代絵画を中核にして、その周辺を補う形で進められてきた。学芸員がこのコレクションを軸にして、いかに展覧会を組み立て、市民の興味を喚起するかに腐心してきた過程は、その都度発行されてきた図録等によって辿ることが出来るが、なかなかのものである。私もこの間に様々な作品の収蔵に関係し、１９９９（平成１１）年度に日本の戦後美術を代表するグループである具体美術協会に所属していた白髪一雄と元永定正の大作を購入したことは特に思い出深い。今では全く手の出ない億の付く価格になっている。これを契機に戦後から現代にかけての美術にも、展示と収集は徐々に広がっている。

２０１７（平成２９）年に田辺市出身の潮隆雄氏の特集から始まった「現代の織」シリーズは、新しい織の造形に取り組む作家を取り上げる特別展で、以降、久保田繁雄、朝倉美津子、草間喜雄などが続き、展覧会の後には作家の方々から作品を購入し、ご寄贈も受けて、そのコレクションは充実してきている。これらは学芸員三谷渉さんのご努力による。

また、２００５（平成１７）年の市町村合併に伴い、熊野古道なかへち美術館が田辺市立美術館の分館となったが、中辺路町立の時から学芸員山本泰代さんが努力され、若い作家との関係を築いて展覧会を開催してきた。妹島和代と西沢立衛設計のガラス張りの美術館は、若い作家を惹きつけ、熊野古道なかへち美術館での作品展示は大変喜ばれている。和歌山県立近代美術館との共催で「森の中で」という特別展が開催され、現代の作家たちの新作が展示されたこともあった。

このように田辺市立美術館では、様々な特別展を開催してきたが、毎回展示作品の図版等を収録した図録が刊行されている。これは素晴らしいことで、他の美術館では、長らく要望をしているが、その予算がつけられずにいるということも聞く。少ない学芸員で、多くの特別展を開催してきたことには、館長を始め、事務の方々のご負担も多かったことと思い頭がさがる。

３０年という一世代が過ぎる中で、田辺市立美術館は成長を続けてきた。近年様々な方から、ご自身が愛されてきた作品をご寄贈やご寄託頂くようになってきた。田辺市立美術館はわれら市民の美術館という意識で捉えられるようになってきたのかもしれない。これも市民と市政の皆様のご支援の賜物である。心から御礼申し上げたいと思う。これからも市民の皆様のお役に立ち、喜ばれる美術館として歩んでいきたいものである。

美術は人間の感性を育て、生活の活力にも繋がり、人生を豊かにするものである。私は小学生時代、お隣の離れで毎週日曜学校があり、そのあと絵を描いていた。近所の井沢良雄先生が地域の子供達に絵を教えてくれたのだ。そして家に帰ると、祖父が私の絵を見て、批評し褒めてくれた。それが私の原体験になっている。小さいころの身近な美術教育のおかげで、今があることを思えば、今の子供たちにもっと芸術とふれあい、体験する機会を作ってあげたいものだと思う。



（株式会社山長商店代表取締役会長・田辺市立美術館協議会会長　榎本　長治）

田辺市立美術館 NEWS　ORANGE Vol.45
編集・発行：田辺市立美術館
発行年月日：令和８年10月１日

田辺市立美術館
〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770 FAX.0739-24-3771

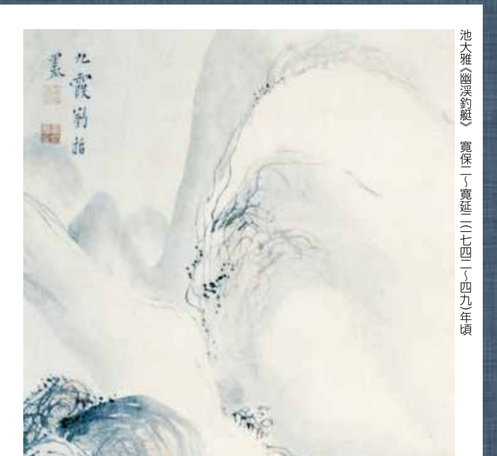
田辺市立美術館分館
熊野古道なかへち美術館
〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露891
TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393

編集後記

今号からORANGEの編集を担当しています。改修工事が無事完了し、開館３０周年の記念展を皮切りに再開する美術館で皆さまをお待ちしています。
本紙の内容が、皆さまの美術作品に触れる機会を豊かにすることにつながりましたら幸いです。　（R.F.）

ORANGE vol.45

田辺市立美術館NEWS



池大雅《幽渓釣艇》寛保二（一七四二）～四九年頃
公益財団法人　脇村奨学会蔵（田辺市立美術館寄託）

作品紹介　池大雅《幽渓釣艇》

【款】
九霞勤指墨

【印】
落款印　朱文方印「九霞山樵」
白文方印「泉石膏肓」
遊印　朱文方印「竹居」

款記の「九霞」は池大雅（一七一三～七六）が用いていた号の一つで、印にも使用されている。幾重もの霞を示す九霞の語は、すなわち仙境の意で、画面の幽邃な渓谷はまさにそれである。その中で独り釣り糸をたらす漁夫の姿に、自身の心を重ね、静寂の空間と悠久の時間を感じとることは文人画鑑賞の醍醐味である。

款の九霞の後に記された「勤」は、寛保二（一七四二）年から寛延二（一七四九）年まで、大雅（〇歳から）七歳～数え年〉の間に用いられていた名で、この作品の制作年を推定する手掛かりとなっている。末尾の「指墨」は、筆を使わず直接指に墨を付けて描いたことを示すもので、大雅は若い頃からこの「指頭画」と称される技法に秀でていた。寛延三（一七五〇）年に紀州の祇園南海（一六七六～一七五一）を訪れた際、その指頭画が大賞されたことが伝わっているが、そのことは本作の完成度を見れば十分に首肯されよう。

（学芸員　三谷　渉）

明治末から大正初にかけての小林古径



小林古径〈竹取物語〉〈竹林之翁〉　1917（大正6）年　　京都国立近代美術館蔵

小林古径（本名は茂）は、１８８３（明治１６）年に新潟県中頸城郡高田土橋町（現在の上越市）に生まれました。年少から日本画を学び、１８９９（明治３２）年、１６歳の時に上京して、歴史画を得意としていた梶田半古のもとに入門します。半古のもとで本格的な画家としての修業を始めますが、そのときの指導のことを後に古径は振り返って、「手を取らんばかりにして教へて下さった」と記しています。「古径」の号も半古からもらい受けたものです。

半古からは写生の重要性と「画品」、そして色彩について厳しく指導されたことを古径は語っています。写生、画の品格、色彩は、古径の表現の特徴を一貫するもので、このときに学んだものが、その後の古径の芸術を開花させる基礎となったことは疑いありません。また、師の作品の模写も数多く残っており、そのことを通して画技だけでなく、古典文学や有職故実についての教養を深め、歴史や文学的な主題を新しい感覚で描くことについても学んでいったことが推測されます。

文部省が１９０７（明治４０）年に開設した公募展、文部省美術展覧会（文展）の第１回展に古径は入選し、早々に頭角を現して半古塾の塾頭格となってゆきます。この頃から半古は病気がちになり、代わって古径が後輩たちを指導していたことも伝えられています。実力のある若手として名が知られるようになり、後に古径とともに日本美術院の中心的な画家となる安田靫彦との交流が生れ、半古塾に遅れて入門してきた前田青邨や奥田土牛を先輩として手助けしたのがこの明治末の時期です。

１９１２（明治４５／大正元）年に発表した《伊蘇普物語》が岡倉天心に賞賛され、同年の第６回文展に出品した《極楽井》が褒状を受けるなど、大正時代に入ると古径は個性をもった作品が注目されるようになり、画家として独り立ちしてゆきます。私生活でも半古塾にいた三好益と結婚し、長女が生れます。

１９１４（大正３）年、岡倉天心の一周忌に再興された日本美術院の展覧会（再興院展）に古径は《異端》を出品して入選し、前田青邨とともに同人に推挙されます。以後古径は再興院展を主な発表の場として意欲的な作品を世に問い、評価されて次第に日本美術院の次世代を担う画家の一人とみなされるようになってゆきます。その途上の１９１７（大正６）年４月に、師の半古が４６歳の若さで亡くなります。この年９月の再興院展に出品されたのが、《竹取物語》一巻です（図版の〈竹林之翁〉は画巻冒頭の第１段）。半古の元で学んだ古典についての広く深い知識と、古径が築いた近代的で個性をもった表現が結びついた３０代の傑作の一つですが、自身では未完成で、失敗作だと当時の新聞のインタビューに答えて不満足を示しています。構想を温めていた竹取物語の制作に取り組んだことには、早く世を去った師の教えに応えて捧げる意志があったようにも想像されます。それが不十分な出来であったとする、厳しい自己批判としての不満ではなかったでしょうか。



大正時代の小林古径　　（写真提供：小林古径記念美術館）

若き日の古径が力を注ぎ、表現を成熟させていった歴史上の人物や説話を主題とした創作に焦点をあてて、それらの作品を展観する特別展と、近代から現代にかけての日本画表現の展開について当館の収蔵品を軸に紹介するコレクション展を、開館３０周年を記念する展覧会としてこの秋から開催します。様々な歴史や物語の舞台となってきた当地での鑑賞を楽しんでいただけましたら幸いです。

（学芸員　三谷　渉）

INFORMATION

開館 30 周年記念特別展

小林古径－歴史と物語を描く－

会　　場／田辺市立美術館
会　　期／2026年10月10日(土)～11月23日(月・祝)
開館時間／午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休 館 日／毎週月曜日（ただし10月12日は開館）
　　10月13日(火)・11月4日(水)・11月7日(土)
観 覧 料／600(480)円
　　学生および18歳未満の方は無料
　　（　）内は20名様以上の団体割引料金

開館 30 周年記念特別展

近代日本画コレクション展

会　　場／田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館
会　　期／2026年10月10日(土)～11月23日(月・祝)
開館時間／午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休 館 日／毎週月曜日（ただし10月12日は開館）
　　10月13日(火)・11月4日(水)・11月7日(土)
観 覧 料／田辺市立美術館　600(480)円
　　小林古径－歴史と物語を描く－と共通
　　熊野古道なかへち美術館　260(200)円
　　両館とも学生および18歳未満の方は無料
　　（　）内は20名様以上の団体割引料金

※11月7日(土)は全国育樹祭行事のため田辺市立美術館のみ休館します。熊野古道なかへち美術館は開館しています。

「くまびで作ろう！」と現代絵画コレクション

田辺市立美術館では、開館当初から日本の近世文人画と近代絵画をコレクションの軸としていますが、この他に比較的新しい収蔵品群として、戦後から現代にかけての作家たちの絵画があります。その中の代表的なものとして、白髪一雄（１９２４～２００８）や元永定正（１９２２～２０１１）らの、作者自身の行為や素材そのものが持つ物質感をテーマにして制作し、美術表現の領域を広げて国際的に評価される作家の作品がありますが、この他に当館が２０２２（令和４）年から開催している、和歌山にゆかりのある現代の作家を特集する展覧会と関連づけて収集してきた作品も特徴的なものとなっています。

２０２２（令和４）年に開催した、和歌山県海南市出身で絵画における空間の問題に取り組み、独自の表現を探求し続けている湯川雅紀（１９６６～　）の特別展「湯川雅紀　2011-2022」は、元々２０１９（令和元）年度末から予定していた作家とのワークショップのシリーズ「くまびで作ろう！」の後に、講師に招いたアーティストの制作を紹介することを考えて２０２０（令和２）年度初に計画していました。しかし、急速に広まった新型コロナウイルス感染症の影響で「くまびで作ろう！」は止むなく中止となり、その後も延期と中止が続いて、２０２２（令和４）年度初に展覧会のみが開催できる運びになったものです。湯川の作品は、特別展開催の翌年に《Haru》（２００２年）、《日輪》（２０１１年）、《Colors》（２０２１年）の３点を収蔵しました。

２０２２（令和４）年度末にようやく開催することができた「くまびで作ろう！①」は、和歌山県湯浅町在住で、主に鉛筆を用い、特徴的な襞の表現によって山や波、雲といった原初的な風景を想起させる作品を制作している画家、妻木良三（１９７４～　）を講師に招いて実施しました。続いて２０２３（令和５）年度初に特別展「妻木良三　侵食する風景」を開催し、翌年に《始景》（２０１４年）、《ZONE Ⅰ》（２０２２年）の２点を収蔵しました。

今年度末に行う「くまびで作ろう！④」の講師に予定している野田裕示（１９５２～　）は、和歌山県御坊市出身で、絵画と造形についての思考をもとに、独自の抽象表現を追求し続けている画家です。野田の作品については一昨年に《WORK33》（１９７４年）、《WORK52》（１９７５年）など初期の大作５点を、昨年にそれらの素描４点を収蔵しています。これらの作品の収蔵を通じての作家との交渉が、今年度の「くまびで作ろう！」開催につながりました。

ここに紹介した戦後から現代にかけての作家のコレクションの一部は、今年１２月から開催する開館３０周年記念「現代絵画コレクション展」で紹介します。また今年度末に行う「くまびで作ろう！④」の参加者募集は、来年３月初頃から開始する予定です。



妻木良三による「くまびで作ろう！①」の様子

現代の美術表現を切り拓いている作家とのワークショップや作品を特集する展覧会は、当館の特色を出しながら今後も積極的に重ねてゆきたいと思っています。それがコレクションの拡充にもつながれば何よりだと考えています。

（学芸員　知野　季里穂）

INFORMATION

開館 30 周年記念

現代絵画コレクション展

会　　場／田辺市立美術館
会　　期／2026年12月5日(土)～2027年1月24日(日)
開館時間／午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休 館 日／毎週月曜日（ただし1月11日は開館）・1月12日（火）
　　12月28日～1月4日（年末年始）
観 覧 料／260(200)円
　　学生および18歳未満の方は無料
　　（　）内は20名様以上の団体割引料金

くまびで作ろう！④

会　　場／熊野古道なかへち美術館
ワークショップ／2027年3月20日(土)
作品公開／2027年3月21日(日)～3月28日(日)
開館時間／午前10時～午後5時
休 館 日／なし

田辺市立美術館と脇村禮次郎氏の文人画コレクション

今年開館３０周年を迎える当館の設立計画の始まりは、実業界の重鎮として活躍する傍らで、美術品を愛好し収集に情熱を傾けた、脇村禮次郎氏（１９０４～８８）の「郷里の田辺市に美術館を」という遺志を受けたことにあります。氏が亡くなられて間もなくの１９８８（昭和６３）年３月に、その遺志を継いだご遺族から、故人が保有していた株券を美術館建設の資金として寄附いただき、事業が開始されました。

脇村禮次郎氏の収集の主であった日本近世の文人画は、父の脇村市太郎氏（１８７４～１９６０、田辺市名誉市民）が１９５７（昭和３２）年に創設した脇村奨学会に遺贈され、美術館の工事が完了した１９９６（平成８）年３月から当館に寄託されました。それらの作品は、同年の１１月１日に開幕した『開館記念展』の第一部「開花・隆盛期の文人画家と紀州の三大文人画家」で公開して以来、当館の特別展、館蔵品で展観を重ねてきました。また今号の表紙で紹介している池大雅の作品を始めとする数々の作品が、他の美術館や博物館の主催する特別展への出品の依頼に応じて、その会場で展示されてきました。当館の活動の基軸に文人画の研究、展示、収集があることには、このような開館以来の経緯があります。

脇村禮次郎氏の美術愛好は文人画にこだわったものではありませんでした。他にもアメリカや日本の抽象絵画、東洋の古陶磁にも関心を寄せ、それらの鑑賞、収集を通じて多彩な人物との交友が生まれ、そのことが氏の心の滋養となり、人生を深めてゆかれたことを、これまでご遺族からいくつものエピソードとともにお聞きしてきました。当館が氏の遺されたコレクションを大切にしてゆくことはもちろんのこと、美術作品を通して人と人との交流が生まれることや、美術館が心を豊かにしてゆくことのきっかけの場となることも、大切に引き継いでゆくべき遺志の一つだと考えています。開館３０周年の機会に、その文人画コレクションを改めて紹介するとともに、当館ならではの親密な雰囲気の会場を作りだすことができればと思っています。



自宅リビングでの脇村禮次郎氏（62歳頃）

（学芸員　三谷　渉）

INFORMATION

開館 30 周年記念

文人画コレクション展

会　　場／田辺市立美術館
会　　期／2027年2月6日(土)～3月22日(月・祝)
開館時間／午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休 館 日／毎週月曜日・2月12日（金）・2月24日（水）
観 覧 料／260(200)円
　　学生および18歳未満の方は無料
　　（　）内は20名様以上の団体割引料金

田辺市立美術館の歩み

1996（平成8）年11月1日
田辺市立美術館開館記念式典を挙行
1996（平成8）年11月1日～12月1日
「開館記念展」を開催
1999（平成11）年4月29日～9月19日
新庄総合公園をメイン会場の一つとする「南紀熊野体験博」が開かれ、当館も記念展を開催
2000（平成12）年3月31日
「所蔵品目録」を刊行
2001（平成13）年3月23日
特別展「鍋井克之展」開催中に、開館以来10万人目の来館者を迎える
2001（平成13）年11月1日
年報第1号（平成8年－12年度）を刊行
2001（平成13）年11月18日～2月11日
開館5周年記念特別展「クールベ展」を開催
2005（平成17）年5月1日
市町村合併により、旧中辺路町立熊野古道なかへち美術館が「田辺市立美術館分館熊野古道なかへち美術館」となる
2005（平成17）年6月1日
田辺市立美術館NEWS「ORANGE」を創刊
2005（平成17）年11月16日
小企画展「川口軌外の作品を中心に」を開催中に、開館以来15万人目の来館者を迎える
2006（平成18）年9月23日～2007（平成19）年3月25日
開館10周年記念特別展「近代日本絵画の諸相」「Ⅰ．水彩画の近代」「Ⅱ．日本画の個性」「Ⅲ．表現主義の流れ」「Ⅳ．写実と抽象」を開催
2008（平成20）年10月10日～12月7日
熊野古道なかへち美術館開館10周年記念特別展「野長瀬晩花展」を開催
2011（平成23）年4月5日～7月3日
開館15周年を記念して、「脇村義太郎と禮次郎　珠玉のコレクション」を開催
2012（平成24）年3月22日
特別展「生誕110年記念　上村松篁展」開催中に、開館以来20万人目の来館者を迎える
2013（平成25）年4月13日～7月7日
熊野古道なかへち美術館開館15周年記念特別展「渡瀬凌雲展」を開催
2015（平成27）年2月14日～3月22日
「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録10周年記念特別展「平山郁夫－熊野路を描く－」を開催
2015（平成27）年12月1日～2016（平成28）年3月31日
改修工事のため休館（外壁塗装・非常用発電設備・ボイラー・電話設備などの改修）
2016（平成28）年7月9日～8月28日
田辺市立美術館開館20周年記念特別展「昭和の洋画を切り拓いた若き情熱－1930年協会から独立へ」を開催
2018（平成30）年4月21日～7月1日、10月6日～11月25日
熊野古道なかへち美術館開館20周年記念展「渡瀬凌雲～渡米の前後で～」
「野長瀬晩花－国画創作協会の画家たちとともに－」を開催
2020（令和2）年4月18日～5月15日
新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が全国に発令されたことを受けて臨時休館
2020（令和2）年9月23日～2021（令和3）年3月31日
改修工事のため休館（照明・電気錠・防火扉・空調機などの改修）
2021（令和3）年10月2日～2022（令和4）年2月6日
開館25周年記念特別展・紀の国わかやま文化祭2021特別連携事業「きのくにの三画人」「第一部　祇園南海」「第二部　桑山玉洲」「第三部　野呂介石」を開催
2024（令和6）年10月5日～11月24日
和歌山県立近代美術館と共催で、「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録20周年記念特別展「仙境　南画の聖地、ここにあり」を開催
2024（令和6）年11月1日
〈紀要第1号〉を刊行
2025（令和7）年1月17日
「近代洋画コレクション展」開催中に、開館以来30万人目の来館者を迎える
2025（令和7）年6月9日～2026（令和8）年10月9日
改修工事のため休館（空調機・受変電設備・自家発電設備・監視カメラなどの改修）
2026（令和8）年10月10日～11月23日
開館30周年記念特別展「小林古径－歴史と物語を描く－」を開催

令折り